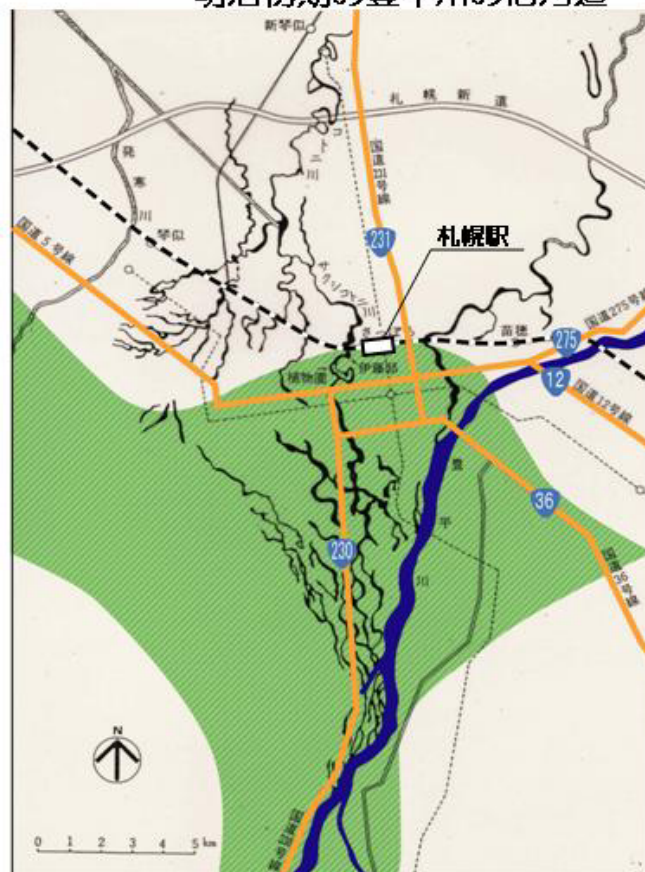


札幌市街地の地形

明治初期の豊平川の旧河道



■ 扇状地

現在の札幌市街地ではもともとの古い地形はわかりづらくなっていますが、明治初期の地形図からは豊平川の旧河道（昔川だった地形）を読みとることができます。すると、真駒内付近を要として扇状地の上に幾筋もの豊平川の旧河道が読みとれます。すなわち昔の豊平川は扇状地の上をいろいろな方向に向かって流れていたことがわかります。

かつての豊平川は大雨が降ると上流の山地地域で雨や土砂を集め、狭い谷間から平地に出たところで運んできた水と土砂を解き放ちました。そのため豊平川の下流部ではたびたび大洪水が起き、そのたびに少しずつ、時には大きく川筋が移動し、扇状地のような地形ができたということが分かります。

扇状地は大きな岩や砂利でできているため透水性が高く、豊平川の水の一部は地面に潜って伏流水となり、扇状地末端にあたる JR 札幌駅近辺などから湧き水（メム）となって流れ出していました。地下水位の低下により現在は自然の湧き水は見られませんが、北海道大学の構内などにはその地形の名残を見ることができます。